

# 教頭会報

栃木県公立小中学校教頭会

発行者 鈴木 淳 司

編集 広 報 部

## — も く じ —

◎会長あいさつ……………	1	◎令和6年度役員紹介……………	6
◎県教頭会の動き		◎特色ある学校……………	10
定期総会・講演会……………	2	◎地区だより……………	11
◎全国研究大会（高知大会）……………	4	◎ひろば・編集後記……………	12

## 会長あいさつ

## ウェルビーイングの向上を目指して

宇都宮市立西が岡小学校 鈴木 淳 司



将来、社会はさらにVUCAの時代になることが予想され、第4期教育振興基本計画では、教育現場には教育をめぐる現状・課題・展望を踏まえ、「持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」の相互循環的な実現に向けた取組を充実させることが示されました。計画では、「子供のウェルビーイング」だけでなく、「教師のウェルビーイング」や「社会全体のウェルビーイング」の実現も意図されており、これは、子供たちのウェルビーイングを高めるためには、教師のウェルビーイングを確保することが必要であるからであり、学校が教師のウェルビーイングを高める場となることが重要であるといえます。

これまで、私たちは教頭職の立場から、一人一人の教師が子供の成長を実感することや保護者や地域との信頼関係を築くこと、職場の心理的安全性が保たれ、よりよい状態の労働環境を作ることなどの実現に向けて尽力してまいりました。

今後、さらに変化の激しい社会が到来するなかで、児童生徒や教職員のウェルビーイングを実現するにあたっては、教育の果たす役割が一層大きなものとなると感じます。そのような状況にあって、必要な「資質・能力」とは何かと考えるとき、その1つに「エージェンシー」が挙げられます。この概念は、「変革を起こすために目標を設定し、振り返りながら責任ある行動をとる能力」と定義されています。

私たちは、教頭会において、「教育理念に基づく学校教育の実現」、「副校長・教頭としての力量の向上」、「学校の社会的役割の推進」を目標に掲げて研究活動を進めてまいりました。「関与性」「継続性」「協働性」を重視し、3か年を通してPDCAサイクルで課題解決型の実践研究を進める際には、各年次の研究において、会員の皆様一人一人がそれぞれに「エージェンシー」を働かせながら、継続的に思考を改善し、意図的かつ責任ある形で行動することを反復するプロセスを通して、学校教育に関する諸課題の解決に努めてこられたことと思います。今年度についても、研究主題「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」のもと、エージェンシーを発揮し、会員相互が連携・協働して研究を進め、私たちの副校長・教頭の使命を果たすことにより、ウェルビーイングの向上を目指してまいりたいと考えます。

最後になりましたが、本教頭会は職能研修団体として、副校長・教頭の社会的地位の向上、学校における教育活動の充実や環境整備に向け、研究成果が各学校に生かされたり、要請活動に活かしたりするよう努めてまいります。会員の皆様のご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

## 栃木県公立小中学校教頭会 定期総会

### 総会並びに研修会に初めて参加して

宇都宮市立雀宮中学校 杵 渕 壮

「第62回定期総会並びに研修会」に参加しました。会場には、県内各地区から会員が集まっており、皆様の堂々たる姿や教育について熱く語っている様子を見て、この会が栃木県の教育を強く牽引するものであると感じました。総会では、鈴木会長のあいさつで「日本社会に根差したウェルビーイングの実現」に向けた取組の必要性が語られるとともに、令和6年度の活動方針が示され、これまで積み上げてきた「教育理念に基づく学校教育の実現」「教頭としての力量の向上」「学校の社会的役割の推進」を目指した活動を更に発展させ、今後も会員相互の協働意識を確認し合い、より一層研究の充実・発展に努めることが確認されました。



さて、研修会は、演題「不登校対応における副校長・教頭の役割」として、栃木県連合教育会常務理事である築瀬のり子氏による講演が行われました。栃木県の小中学校の不登校児童生徒数は増加し続けており、不登校対応は喫緊の課題となっていることから、各学校においてリーダーシップを発揮して課題解決しなくてはならない参加者にとって貴重なものとなりました。私が講演で特に印象に残ったことは、「みんなが気付いたことを声に出せる職員室にすること」「先生方の声をつなぐこと」「否定的表現をリフレーミングして、多様な見方に変えること」が教頭の役割であるということです。普段から教職員の言葉に耳を傾け、不登校対応に係る考え方を一致させておく必要があることを改めて感じました。ぜひ、学校でこのことを心がけて実践していきたいと考えています。今回の総会並びに研修会は大変有意義なものとなりました。

### 総会に参加して

宇都宮市立城山西小学校 川 口 英 利

今回、定期総会の議長の役を初めて仰せつかりました。滅多に経験する機会のない役目でしたので、壇上で緊張しつつ取り組みました。おかげ様で県内全域からお越しの先生方のご協力により、無事に議事を進めることができ安堵しました。皆様、大変お世話になりました。こうした、いわゆる裏方としての会の運営に携わることができ、緻密に細部にまで気を配って準備することの大切さに改めて気付くことが



ことができました。事務局のスタッフの皆様と役員の先生方に本当に頭の下がる思いです。ありがとうございました。ここでの気付きは、普段の学校経営にも通じることでした。この貴重な経験を今後のサービスに生かしていきたいです。

研修会では、県連合教育会常務理事の築瀬のり子先生による「不登校対応における教頭の役割」と題したご講話をいただきました。こちらも、今まさに勤務校で日々抱えている重大な課題と直結した大変興味深い内容でした。不登校の要因の一つ一つの様相が、関わっている子供たちに当てはまり、納得をする一方で、保護要因を増やす努力をしない学校は役目と副校長としての役割は重大であると感じました。様々なアプローチの仕方がある中で、子供たちの個に応じたタイプの分析(チェック・リスト)は、示唆に富むものでした。そして、校内における教職員チームでの連携をもとに、関係機関への働きかけや保護者支援も重要になることが再確認できました。築瀬先生のご講話をもとに副校長として不登校対応の中核となり、すぐに取り組むべきことが見えてきました。大変ためになる研修となりました。ありがとうございました。

# 講演会

## 講演会を通して学んだこと

宇都宮市立陽光小学校 鈴木 葉子

「何か質問のある方はいらっしゃいますか？」の進行の方の声に、次々に続く質問。「不登校対応における副校長・教頭の役割」の講演は、まさにどの学校の先生にとっても切実なものなのだと実感した時間でした。

講師の築瀬のり子先生のお話は、不登校の未然防止や対応として、児童・生徒にどう支援していくかの具体的な方策と合わせて、これらを行うときの副校長・教頭の役割を整理して話していただいたので、副校長1年目の私にとって今後の自分の取り組みを整理するよい機会となりました。

中でも、心に強く残ったと同時に実践したいと感じた内容を二つ記します。

一つ目は、不登校の実態とその理由についてです。

千人当たりの不登校の数を見ると、中学校は70.3人で全国1位、小学校は16.6人で21位だそうです。同じ県なのに校種間での差が大きい理由として、「小学校の教員は、児童の自立に向けて、自分で動けるようにと丁寧に足場を架けるのが得意である一方、中学校の教員は足場を外す方が得意であることが多い。」この違いに原因があるのではないかと言及されていました。小中学校が連携し、足場の架け方と外し方を、児童・生徒の発達段階と実態に合わせてならしていくことが大切であると考えました。

二つ目は、学校・教職員の風土づくりです。

不登校が生まれにくい学校、居がいのある学校にするためには、心地よい状況を作り出す言動が大切だそうです。そのためには、単に言葉だけに気を付けるのではなく、認知・感情・行動が一貫したものになるようにしていくことが大切だとも話されていました。

また、教職員が子供の様子の変化に気付く感性を磨くのと同時に、気付いたことを声に出せる職員室にしていくことが大切であることも教えていただきました。その中で、副校長・教頭としてできそうなこととして見つけたのは、①一人職・会任職の先生の声を担当の先生方につなぐこと、②教職員が発した声を気付きだけで留めず、問題解決の方向に導く声掛けや、肯定的表現ヘリフレーミングしていくことの2つです。自分自身の感性を磨くのと同時に、職員室経営の手立てに取り入れていきます。

最後に、不登校児童・生徒への対応は、ことが起きてからの対応ではなく、起きないように基盤づくりの大切さを再認識できた講演会でした。本講演で学んだことを勤務校で実践し、児童だけでなく教職員にとっても居がいのある学校づくりに尽力していこうと思います。



## 全国研究大会 高知大会報告（全体会）

### 「想像」と「創造」

那須塩原市立黒磯北中学校 室 井 健太郎

令和6年度第66回全国公立学校教頭会研究大会では、7月31日(水)に記念講演及びシンポジウムが、8月1日(木)に分科会が行われました。

今回の大会では、映画監督である安藤桃子氏から記念講演をいただきました。安藤桃子氏は2010年「カケラ」で監督・脚本デビューし、2014年に、自ら書き下ろした長編小説「0.5ミリ」を映画化し数々の賞を受賞されました。この映画の撮影を高知県で行ったことがきっかけで高知県に移住し、ミニシアターを設立しました。また、子供たちとの映画作りワークショップを行うとともに、ミニシアターにて「映画祭り」を開催して、子供たちが制作した映画の発表会等も行っています。講話ではその活動や活動に参加した子供たちの姿を中心にお話をいただきました。

映画作りワークショップは、3日間で地域をテーマにしたシナリオ作りから撮影、編集、発表までを行うプログラムです。講話の中で特に印象に残ったことは、映画作りは社会の縮図そのものであること。監督や撮影、録音などさまざまな役割があり、チームとして力を合わせて活動する必要があります。子供たちは、自分の役割を自己決定し、チームの目標実現のために役割に責任をもち、努力・工夫して、力を合わせてやり遂げる姿が見られるということでした。これからの時代を生きていく子供たちには、正解のない問い（課題）に対する答えを自分なりに「想像」する力、そして想像したことを他者と協働して「創造（具現化）」する力が求められます。映画作りを通して、子供たちにそれらの力を育くまれている安藤氏の話を押聴することができ、教頭として魅力ある学校を創っていくためのエネルギーとヒントを与えていただきました。

### 全国研究大会高知大会に参加して（シンポジウム）

鹿沼市立清洲第一小学校 宇賀神 万 理

今年度の全国研究大会のシンポジウムが、「夢と志をもち、協働して未来を創る子どもを育成するチーム学校づくりの推進」というテーマのもと、3名のシンポジストをお迎えして行われた。

コーディネーターである愛媛大学大学院教授、露口健司氏からは、教育現場が目指すウェルビーイングについての提案がなされた。子どもの周りのつながりを基にした循環が、子どもたちも教師も、教頭のウェルビーイングをも高めていくということ。そして、先生方の働きやすさ・働きがいと、子どもたちの学力向上やウェルビーイングといった「教育効果」をつなげていく視点の大切さについて伺った。

高知市教育委員会教育委員、谷智子氏からは、どんな立場の職員でも、子どものウェルビーイングに関わり貢献できること。外部人材の協働化も交えての持続可能な組織づくりの推進が課題であるという話がなされた。

(株)千クリエイティブカンパニー代表取締役、田村千賀氏からは、よさこいの指導を通して子どもたちのウェルビーイングをどのように高めているのか伺った。子どもの主体性を育む言葉かけ、「どうしてそう思うか。」「どうしたいのか。」といった話し合いを大切に活動、深い人間理解、想像力、一人一人にタイムリーな関わりを心掛けている話等があった。

国立教育政策研究所、藤原文雄氏からは、第四期教育振興基本計画に示された日本社会におけるウェルビーイングとからめ、自ら学び続ける教師と組織づくりについての話を伺った。

全体を通して、子どもを中心とした、学校、教師、地域のつながりの循環を基とする持続可能な組織・仕組みづくりを推進する必要性を実感した。



## 高知大会報告（分科会）

### 全国研究大会高知大会 第1A分科会にオンライン参加して

真岡市立大内中学校 豊田 正人

私は第1A分科会（教育課程に関する課題）に参加しました。午前中は「小中一貫教育の編成を通して教職員が主体的に取り組むための副校長・教頭の役割」を協議の柱としてグループ協議を行いました。私のグループでは、10年以上小中学校間の乗り入れ授業を行っている学校や、週1回中学校から小学校に乗り入れ授業をする授業枠が設定されている学校などがあり、大いに参考になりました。反対に小中の連携がまだまだ進んでいない学校もあり、全国的に見ると地域間の格差が大きいとも感じました。いずれのケースも教頭が調整役として関わることが重要であることが分かりました。

午後は「持続可能な一貫教育を推進していくための副校長・教頭としての役割」を協議の柱としてグループ協議を行いました。本グループには一貫教育を実施している学校はなかったため、小中連携、中高連携について話し合いを進めました。小中連携では体験入学や事務引き継ぎ等を実施、中高連携では高校側からの支援事業を実施している事例が紹介されました。いずれも教頭が連絡調整を行うことで実現できたことが分かりました。また、キャリアパスポートの活用法について、自治体統一形式の有無、中学校での統一が必要などの意見が出ましたが、決まった活用法が無い手探りの状況は全国共通だということが分かりました。

全体を通して、教頭が連絡調整など深く関わることの重要性を再確認した研修となりました。このような全国各地の取り組みについて情報交換をすることで自分の視野を広げることができました。貴重な研修の機会をいただいたことに心から感謝申し上げます。

### 全国研究大会高知大会 特別分科会Ⅰに参加して

足利市立葉鹿小学校 田村 有久

8月1日、研究大会2日目の特Ⅰ分科会「時宜に応じた課題」に参集型で参加させていただきました。「誰一人取り残さず、個々の可能性を最大限に引き出す教育の推進に向けた教頭の役割—個別最適な学びと協働的な学びの日常化を図るための教育のDX化に向けて—」というテーマで、東京学芸大学教育学部教授の高橋純先生よりご講話をいただきました。

高橋先生からは、個別最適な学びと協働的な学びの日常化を図るためには、子どもを主語にした授業観を転換させるだけでなく、教員の研修観も転換させ、取り組むことが近道であり、ひいては教育のDX化につながっていくことをご示唆いただきました。

また、1人1台タブレット端末を活用した授業づくりでは、従来の単線型ではなく、クラウドを活用した複線型を発達段階に応じて構成していくことが重要であり、端末+問題解決的な活動は、個別も協働も一斉も教室内で同時に展開され、多様な子どもたちが学びやすいスタイルになるとのことでした。

グループ協議では、1人1台タブレット端末活用に関する個人差（児童生徒・教員）があるという実態もある中、職員室からデジタル化に取り組み、それが授業にも反映されてきているという学校がありました。また、複線型の授業づくりでは子どもたちに理念をどうもたせるかということが重要である、自由進度学習に取り組んでいる学校では、子どもたちに変容が見られ成果が出ているという意見も出され、大変参考になりました。

本大会に参加させていただき、全国の先生方と教育のDX化について情報を交換し、深く考えることができました。貴重な機会をいただきありがとうございます。



# 役 員 紹 介



**会 長**  
**鈴木 淳司**  
(宇都宮市立西が岡小)

今年度、県公立小中学校教頭会会長を務めさせていただくことになりました。県教頭会役員、事務局職員の皆様とともに、教頭会の運営に尽力したいと思います。休日は、季節に合わせて種から草花の苗を育て、それを自宅や職場に植栽して楽しんでいます。1年間、どうぞよろしくお願いいたします。



**副会長**  
**坂本 弘志**  
(宇都宮市立旭中)

今年度、副会長を務めさせていただくことになりました。鈴木会長を補佐し、事務局と連携して教頭会の運営に努めて参ります。現場では、特に働き方改革の推進について、職員と検討を進めています。休日は、五十肩や坐骨神経痛からの脱出の方策を探求することを楽しんでいます(ストレッチです)。1年間どうぞよろしくお願いいたします。



**副会長**  
**君島 直人**  
(宇都宮市立清原東小)

今年度、副会長を務めさせていただくことになりました。役員・事務局の方々と連携しながら取り組んでいきたいと思っています。休日には、サッカー観戦や、歴史的な町並みを巡りながら、地酒やご当地グルメを堪能できたらいいなと思っていますが、現実には伸び放題の庭の草木と楽しく戯れる週末です。



**副会長**  
**伊藤 敦史**  
(宇都宮市立田原中)

今年度、副会長を務めさせていただくことになりました。鈴木会長並びに役員の方、事務局の方々と共に、1年間教頭会の運営に携わっていきたく思います。微力ではございますが、よろしくお願いいたします。近年の働き方改革のおかげで、土日に日を浴びることが多くなり、より健康的になりました。



**副会長**  
**荏原 寛一**  
(日光市立落合西小)

今年度副会長を務めさせていただくことになりました。微力ながらではありますが、鈴木会長を補佐しつつ、より円滑な本会の運営に携わることができたらと思います。家庭菜園が好きで休日には肥料を与えたり、剪定、収穫したり、さらにはそのまま炭火で焼いて食べたりと楽しい“庭生活”を送っております。



**副会長**  
**高沢 八起**  
(足利市立坂西中)

今年度、副会長を務めさせていただくことになりました。鈴木会長をはじめ役員の方々と連携しながら、微力ではございますが自分のできることをしっかり取り組み、教頭会の発展に尽力したいと思います。休日は心を無にしながら雑草との格闘を楽しんでいます。1年間よろしくお願いいたします。



**幹事長**  
**山野井純夫**  
(宇都宮市立岡本北小)

本年度、幹事長を仰せつかり、県教頭会の発展に向け、微力ながら努めて参ります。趣味はジョギングと映画鑑賞です。昨年度は、全然走ることができませんでした。脱メタボに向け、まず、給食の大盛・おかわりの禁止、そしてランニングシューズを新調し、できれば週1のジョギングを心掛け、心身共にリフレッシュしたいと思います。



**庶務**  
**栗田 康弘**  
(宇都宮市立姿川第二小)

今年度、庶務を担当させていただくことになりました。会員の皆様をはじめ、事務局や役員の皆様のお役に立てるよう、理事会や研修会の司会進行等のお仕事に精一杯努めてまいります。微力ではございますが、どうぞよろしくお願いいたします。最近の休日は、庭木の手入れやドライブなどを楽しんでいます。



**庶務**  
**吉川 真弓**  
(宇都宮市立豊郷中)

今年度、県教頭会の庶務を務めさせていただくことになりました。会員の皆様をはじめ、事務局や役員の皆様と連携を図りながら、理事会や研修会の進行等を精一杯努めてまいります。微力ではございますが、1年間よろしくお願いいたします。休日は、主にBリーグやWリーグのスポーツ観戦をしています。



会 計  
**武藤 紀子**  
(宇都宮市立五代小)

今年度も会計を担当させていただきます。コロナが5類に移行後、様々な地域や学校の行事が復活し、教頭職はさらに多忙を極め、その大変さを日々痛感しています。私は、忙しい中にも日々楽しみを見付けるように心掛け生活しています。休日は、日常の生活を忘れストレスを解消するために、思い切り体を動かして美味しいものを食べるに出掛けています。



会 計  
**田中美由紀**  
(宇都宮市立戸祭小)

昨年度に引き続き、会計をお引き受けすることになりました。県教頭会の運営が滞りなく進んでいきますよう、事務局や役員の皆様と連携を図りながら、微力ではございますが精一杯努めて参りたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。休日は、高齢の両親を連れて温泉や食事に行ったり、録りためたドラマを見たりしています。



全国総務・調査部員  
**今野 守**  
(上三川町立本郷小)

休日は、おいしい物の食べ歩きに仲間と楽しく行っています。特にラーメンが好きで、鶏白湯や塩味に始まり、二郎系ラーメンまで幅広く食べます。また、最近は蕎麦屋さんも巡るようになり、日光方面などにも足を伸ばしています。これからも、暇を見つけて味の探究を続けていきます。



全国研究部員  
**鈴木 克明**  
(宇都宮市立晃陽中)

今年度、全国公立学校教頭会研究部を任じられ、責任の重さを感じています。全国の副校長・教頭先生と交流を深められる良い機会ですので、一生懸命務め、全国の動向や情報を得たいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。最近、小さな子猫が我が家に来て、愛猫が、そして家族が増えました。休日は、家族とじゃれています。猫も三者三様で見ていて楽しいですし、心がほっこり癒されています。



研究部長  
**加藤 雅継**  
(宇都宮市立清原中)

清原中に着任し、4か月が経ちました。鈴木会長の下、研究を深めていければと思っております。よろしくお願いいたします。清原中のすぐそばに、LRTが通っています。それに乗って、あちこちの停留所で降りて知らない街を散策し、おいしいものを食べる休日をお過ごししたい、という夢もっています。



調査部長  
**鈴木 則子**  
(宇都宮市立星が丘中)

今年度、調査部長として県教頭会専門部役員をお引き受けすることになりました。微力ではございますが、会員の皆様をはじめ、事務局や役員の皆様と連携を図りながら精一杯努めてまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。休日は、音楽鑑賞やランチ巡りをして楽しんでいます。



広報部長  
**山口 和彦**  
(宇都宮市立国本中央小)

昨年度に引き続き本年度も広報部長を務めさせていただきます。教頭会事務局の皆様、役員の皆様と連携を図り、教頭会報を発行させていただきたいと思っております。最近の休日の楽しみは、TVでのスポーツ観戦です。ジャンルは様々ですが、野球、サッカー、スケート等々、頑張る人たちから元気をもらう大切な時間となっています。



要請部長  
**鮎瀬 寿久**  
(宇都宮市立田原西小)

昨年度に引き続き、要請部長として県教頭会専門部役員をお引き受けすることになりました。鈴木会長、郡司副部長と共に、皆様のご意見を現場の声として要請活動に反映させてまいりたいと思っております。お力添え、どうぞよろしくお願いいたします。休日はトレッキングや庭木の手入れ、そしてペットの猫との戯れに心癒されています。



IT部長  
**若林 直行**  
(宇都宮市立西小)

今年度IT部を担当させていただくことになりました。会長を支え、会員の皆様方のご支援・ご協力をいただきながら、子供たちにとっても教員にとっても「魅力ある学校づくり」に取り組んでまいります。休みの日は街歩きや山登りをしています。今後とも、ご支援・ご協力の程よろしくお願いいたします。



副幹事長  
鈴木 宏美  
(宇都宮市立上河内中)

本年度、副幹事長を担当させていただくことになりました。休日は愛犬（15歳の柴犬です）と遊んだり、美味しいパンとコーヒーを求め、ドライブに出かけたりしています。鈴木会長のご指導の下、役員及び事務局の皆様との連携・協働を大切に、微力ながら精一杯取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



幹事  
前原 義之  
(宇都宮市立雀宮東小)

今年度、初めて幹事を務めさせていただくことになりました。休日の楽しみはスポーツ観戦です。アイスホッケー、サッカー、バスケットボールの会場に足を運び、応援を楽しんでいます。微力ではありますが、教頭会の活動の充実に向け、精一杯取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。



幹事  
須甲有美子  
(上三川町立本郷北小)

昨年度に引き続き、教頭会幹事を務めさせていただくことになりました。楽しみは、ライブに行き、生の音楽を聴くことです。心が揺さぶられ、幸せな気持ちになります。今年度も子供たちと職員が元気になれる学校にしたいという思いでおります。教頭会においても、微力ではありますが課題の解決に取り組んでいきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



幹事  
横山 真澄  
(真岡市立山前小)

今年度、初めて教頭会幹事を務めさせていただくことになりました。貴重な経験をさせていただける機会と捉え、教頭としての力量や魅力を高めていければと思っています。県教頭会の業務が円滑に進むように、精一杯尽力して参ります。1年間どうぞよろしくお願いいたします。



幹事  
高山 耕治  
(栃木市立都賀中)

今年度、初めて県教頭会の幹事を務めさせていただくことになりました。栃木県公立小中学校教頭会という伝統ある組織の役職であり、責務を果たすことができるかとても不安ですが、先生方にご指導をいただきながら務めてまいります。1年間、どうぞよろしくお願いいたします。



幹事  
石田 尚基  
(塩谷町立玉生小)

今年度、初めて県教頭会幹事を務めさせていただくことになりました。休日の楽しみは季節により様々です。春から秋はバイクツーリング、野球（プレーヤー）、夏季はサーフィン、冬季はスキー（コブ滑走）と、アクティブに充実した休日を過ごすことが、日々のストレス発散には最高です。



幹事  
西海 寿  
(那須塩原市立西小)

今年度、初めて教頭会幹事を務めます。微力ではありますが、栃木県教頭会のために尽力してまいります。私は、週末にサ道をたしなんでいます。サウナ、水風呂、外気浴を繰り返し、いわゆる整うという状態へ陥りリフレッシュしています。そのまま家まで水分は我慢。夕飯のビールを飲んで至福のときを迎えます。



幹事  
小林 昭宏  
(佐野市立犬伏小)

役員の方、事務局の皆様と連携をしながら、教頭会の活動を真摯に取り組んでいきたいと思っております。私は、月一回程度、佐野市こども国で、宇宙少年団の団長として、宇宙飛行士を目指す科学好きな子供たちを集め、水ロケットやモデルロケットを作ったり飛ばしたりする活動をしています。子供たちの未来のために活動することはとても楽しいです。



幹事  
田村 有久  
(足利市立葉鹿小)

今年度、初めて教頭会幹事を務めさせていただくこととなりました。昨年からです。週末は畑を耕し、四季折々の野菜を育てています。野菜作りから学ぶこともとても多く、今は、毎週畑に行くことが楽しみです。本会の発展・充実のために、微力ですが尽力してまいります。よろしくお願いいたします。



**研究副部長**  
**水井 ゆかり**  
(宇都宮市立瑞穂野北小)

今年度、初めて研究副部長を務めさせていただきましたことになりました。微力ではありますが、本会の研究が有意義なものとなるよう努めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。私の癒しは、桜や紅葉、滝などを巡りながらドライブすることです。行きと帰りはなるべく違うルートを選んで走り、新たな発見をすることも楽しみのひとつです。



**研究副部長**  
**鈴木 葉子**  
(宇都宮市立陽光小)

今年度、研究副部長を務めさせていただきましたことになりました。休日には、2羽のウロコインコと会話(?)を楽しみながらのんびり過ごしたり、ふらっと旅に出て非現実の世界を楽しんだりしています。微力ではありますが、先輩方にご指導いただきながら努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



**調査副部長**  
**吉田 保**  
(上三川町立明治南小)

昨年度に引き続き、調査副部長を務めさせていただきましたことになりました。調査等を通じ、副校長・教頭の現状や実態を把握し、先生方へ調査結果をお伝えできればと思います。休日は、できるだけ洗車をしています。どうぞよろしくお願いいたします。



**調査副部長**  
**北條 諭**  
(栃木県立東高附属中)

今年度、調査副部長を担当させていただきましたことになりました。鈴木部長、吉田副部長と協力して、調査結果のまとめや報告をさせていただきます。休日の過ごし方については、住んでいるところが、古賀志山の麓のため、夏は「草刈り」がメインです。夏以外は、「浦和レッズの応援」に埼玉スタジアムに通っています。



**広報副部長**  
**村松 保子**  
(宇都宮市立昭和小)

広報部の副部長として、会員の皆様の交流・情報交換の場となるよう、事務局や部員の皆様と協力して会報作成に携わってまいります。昨年秋より家族が増え、ご飯やおやつを選んだり、喜びそうなおもちゃを探したりと、休日にも忙しくなりました。お散歩でのうれしそうにはしゃぐ愛犬の姿やまなざしに癒されています。1年間どうぞよろしくお願いいたします。



**広報副部長**  
**佐々木美和**  
(宇都宮市立晃宝小)

今年度、初めて広報部副部長を担当させていただきましたことになりました。微力ではありますが、会報の発行のために精一杯努めて参りたいと思います。人生100年時代、残り半分をどう楽しく過ごすか、趣味を模索中です。休日は、友人と今後につながる趣味と健康について積極的に情報交換をしています。



**要請副部長**  
**郡司 隆文**  
(那須塩原市立大山小)

昨年度に引き続き、要請副部長を務めさせていただきましたことになりました。休日は、庭の草むしりの傍ら、府中や中山、阪神、京都など日本各地で行われているスポーツを手汗握りながら観戦するのが専らの楽しみです。微力ですが、本会のために尽力していきたいです。どうぞよろしくお願いいたします。



**I T副部長**  
**小杉 由美**  
(宇都宮市立宮の原中)

今年度も引き続きI T部で活動させていただきます。教頭会の活動をとおして多くの先生方と関わる機会をいただき、視野を広げることができました。今年度も部長を補佐し、県や地区の活動を迅速に情報発信していきたいです。休日は、日本全国の焼き物の産地を巡る計画を実行中です。まずは日本遺産の「日本六古窯」制覇を目指しています。



**I T副部長**  
**杵淵 壮**  
(宇都宮市立雀宮中)

今年度より、I T副部長を務めさせていただきましたことになりました。大変未熟ではありますが、皆様にご迷惑をおかけしないよう、活動していきたいです。趣味はラーメンを食べることで、休日には、新しい店を見つけて食べに行っています。また、罪滅ぼし程度に散歩したり、植物の世話をしたりしています。

## 「三中魂」・「三中プライド」

小山市立小山第三中学校 清水良祐

小山第三中学校は、昭和55年度に開校した小山市の中では新しい中学校です。小山駅東口から国道新4号線までが学区で、住宅開発等により生徒数は増え、現在は栃木県内で有数な大規模校になりました。「文武両道」・「質実剛健」の校風のもと、礼節を重んじる教育が根付き、勉強と部活動の両立を掲げているのが本校の特徴です。



特に部活動が盛んで、生徒たちは「三中魂」・「三中プライド」を掲げ、部活動に励んでいます。令和5年度は、運動部では関東大会に、陸上競技部男女個人・水泳部男女個人・ハンドボール部男子・剣道部男女団体及び男女個人・柔道部男子団体及び男女個人が出場しました。文化部では、吹奏楽部が東関東吹奏楽コンクールに出場し、情報技術部が統計グラフ県コンクールにおいて学校賞を受賞しました。また、運動部では全国大会に、陸上競技部女子個人・剣道部男子団体及び男女個人が出場しました。文化部では、情報技術部で男子個人が全国統計グラフコンクールに出品しました。今年度もそれぞれの部で熱心に活動しており、特に美術部は、地域からの依頼を受け、地域の施設のシャッターにデザイン装飾する活動を開始しました。

毎年、総合体育大会前には、生徒会主催で「部活動壮行会」を実施しています。壮行会では、各部の部長が決意や目標を全校生徒の前で発表したり、1・2年生で結成されたエール隊から、3年生にエールを送るなど、最後の大会やコンクール等で精一杯力が発揮できるように意識を高めています。このような活動を通して、先輩から後輩へ「三中魂」・「三中プライド」を継承しています。

## 未来（あす）を創る力を備えた地域を愛する北小っ子

高根沢町立北小学校 宇塚利和

本校では、「未来（あす）を創る力を備えた地域を愛する北小っ子」を合言葉に、教育活動を行っています。活動を進めるうえで、コンシェルジュ（地域学校協働活動推進委員）を中心に「わくわく北の子応援隊」として、たくさんの方々が活動を支えてくださっています。

1年生は、町更生保護女性会の方々と一緒に、チューリップの球根を植える活動を行っています。植えたチューリップは、翌年の入学式にきれいな花を咲かせて、新1年生を迎えています。4年生は理科の授業で、ひょうたん名人の指導を受けています。立派にできあがったひょうたんは、地元で行われている「ひょうたん展示会」に出品しています。5年生は総合的な学習の時間で米作りの指導を受けています。わらを使ったしめ縄づくりでは、しめ縄に飾りを付けて、手作りのしめ縄飾りで新年を迎えています。他の学年も、そろばん教室や調理実習など、たくさんの方々に支援してもらっています。その他にも本校では、平成16年より「自主防犯高根沢北パト隊（北小スクールガード）」の方々が、児童の登下校の見守りを続けており、その功績に対して、令和5年には文部科学大臣より「学校安全ボランティア活動奨励賞」をいただきました。



このように本校では、たくさんの方々に支えられながら教育活動を行っています。活動を行う中で、子どもたちのなかに感謝の気持ちが育っています。たくさんの方々に支えられながら、「未来（あす）を創る力を備えた地域を愛する北小っ子」を合言葉に学校教育目標の達成に向けて、学校、家庭、地域が一丸となって取り組んでいます。

## 上都賀地区小中教頭会の取組

上都賀地区小中学校教頭会長 荏原 寛 一

上都賀地区小中学校教頭会は、鹿沼市が小学校24校、中学校10校、日光市が小学校20校、中学校14校うち小中併設校5校で構成されております。県の約3分の1を占める広い範囲の中で、全校生徒750名を超える県内屈指の大規模中学校もあれば、へき地学校、複式学級を有する学校もあり、中には全校児童生徒あわせて10名を下回る学校もあります。そんな広範囲、規模の差の中でも、子どもたちの育成のため、本会員は研修、協議、情報共有をしながら各学校において学校運営協議会の運営、特色ある学校づくり等の中核となって学校運営を進めているところです。

さて、全国統一研究主題である「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」を受け、本地区では「未来を切り拓く力を育てる学校教育の実践～教育目標の具現化に向けた取組を通して～」を研究テーマとして取り組んで参りました。具体的な内容として小中連携・一貫教育において9年間を見通した目指す児童生徒像及び育てたい資質・能力を共有しつつ、系統的・連続性のある質の高い教育活動の実践、教職員、児童、保護者が目指す児童の資質・能力を共通理解し、教育活動を評価・改善できるPDCAサイクルの実践等がありました。それらの実態把握や、教頭としての関わりについての現状から研究実践の焦点化を目指し取り組んでおります。

また本会では毎年、現在教育現場で教頭が学校運営において大きく直面している課題である「働き方改革」や「危機管理」等について専門的な知見を持つ講師を招き研修を行っております。まだまだ「学力向上」「コンプライアンス」「教職員の人権感覚、意識」等教頭が教職員とともに資質を高めていくべき課題は山積されております。子どもが「未来を切り拓く力」を身に付け、大人になったとき、明るい未来が待っていることを信じて教頭同士、教職員同士が協働して困難に立ち向かうことのできる本会の運営に努めていきたいと思っております。

## 足利市立小中学校教頭会の取組

足利市立小中学校教頭会長 高 沢 八 起

足利市小中学校教頭会は足利市内の公立小学校22校（22名）、中学校11校（12名）で構成されております。会は研修部・調査部・厚生部の3つの部で組織されています。それぞれの担当内容を分担して活動を行っています。研修会は年間5回を予定しています。全体会では県教頭会からの課題の研究、各種研修会の参加報告、各部からの連絡や協議等を行っています。全体会後は小学校グループと中学校グループに分かれて情報交換会も実施しています。また、第5回研修会では講師を招いての研修を行っています。昨年度は市のいじめストップアドバイザーをお招きして「発達に課題を持つ児童生徒への支援について」の講話をいただきました。学校では、学級担任を中心に子ども同士が認めあえる雰囲気づくりに努めています。教職員だけでなくスクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラー等の外部人材もふくめ「チーム学校」で児童生徒に関わっています。支援の必要な児童生徒の対応には、子どもだけでなく保護者にも継続的に関わっていくことが大切です。子どもと同様に不安や悩みを抱える保護者との信頼関係づくりにも努めています。そこで、足利市小中学校教頭会では令和5年度からの第13期全国統一研究主題「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」のもと、第12期と同じ「子供の発達に関する課題」について継続して研究をすすめています。地区の研究主題として「児童生徒一人一人に適切な対応と支援を行うための体制づくり」を掲げています。各学校の現状や課題を再度見つめ直し、集団不適應や発達障害をはじめとする個別に支援を必要とする児童生徒に対して、「人・物・場所」をどのように活用していくことがより効果的かということについて研究しています。この研究が本教頭会が長年、研究の基盤として掲げてきた『教頭としての4関与（知的関与・情的関与・働的関与・物的関与）』について再確認し、教頭の職務機能の充実を図る機会となるよう努めています。



## つないできたもの

宇都宮市立宝木小学校 齊藤 誠

私は、高校、大学、社会人とラグビーを続けてきました。そこで出会った仲間は変わった人間ばかりですが、私にとって人生の宝となっています。現役を引退した後は、自分のクラスの児童を中心に「タグラグビーチーム」を作り、大会に出るなど、ラグビーの楽しさを子供たちと共に味わうことができました。そのチームも今年で19年目をむかえます。そして、今までの仲間も集まってくれて、コーチ17人、子供たちは1～6年生まで合わせて70人弱の大きなクラブチームとなりました。クラブチームとはいえ、会費はもちろんなく、コーチは全員ボランティア、都合がつく人が練習に参加し、保護者の協力体制も万全で、みんなの力でチームの運営が成り立っています。おかげさまで全国大会には11年連続、12回の出場、うち3位2回、準優勝2回の強豪チームに成長しました。本当に有難いことです。そこで学んだのは、人と人とのつながりの大切さです。まさに、パスをつないでトライを目指すラグビーそのもの。つないだパスは確実に多くの人たちに渡り、ラグビーの普及に成果をあげています。OBOGもたまに顔を出してくれます。帰ってくる場所としても、ずっと守り続けていきたいです。

## 段取り力

宇都宮市立陽東中学校 五月女正明

「段取りが大切」と聞きますが、「段取り力」とは？調べてみると、「段取りを立てられれば、短時間で物事の成果を出すことにつながり、それらをスムーズかつ正確に進めるための必要な能力が、段取り力」とのこと。また、力を高めるうえでは、「仕事の整理」「優先順位付け」「スケジュールリング」を意識し、改善していくことが欠かせないとのこと。

かつて我が家は、費用を抑えるため「ハーフビルド」で建てました。基礎や躯体工事は当然大工さんですが、床張りや漆喰塗りなどは、ほぼ自分で行いました。軽い気持ちで始めましたが、床張りは筋肉痛との闘い、漆喰塗りは気持ちとの闘い、塗るまでに様々な工程があり、一日がんばっても壁一面がやっとでした。家にはこんなに壁があるのかと何度も心が折れました。しかし、「段取り力」が試されていたのかしれません。限られた休日を活用するため、小さなことでも無駄な作業をしていないかなど、作業の整理、優先順位を考えていました。

地方自治法では、「最少の経費で最大の効果を上げるようにしなければならない」とあります。学校も、組織全体でより高い成果を生み出すためには、限られた人、モノを十分活用することはもちろん、私の「段取り力」が求められているのかもしれません。

## 休日の過ごし方

佐野市立佐野小学校 小林 幸江

子供たちが小さいころは、休日になると「何をして遊ぶのか」「どこに連れて行こうか」といろいろ考えながら子供たち中心の休日を過ごしていた。子供たちが成長するにつれ、スポーツクラブや部活での活動の予定が入り、やはり子供たち中心の休日が続いた。そんな休日も、忙しくはあったが充実した楽しいものだった。しかし、最近では、子供たちも成長し、私の休日もだいぶ変わってきた。

土曜日は一週間の疲れを癒す休息に。そして、日曜日は何か楽しいことをしよう!と思うのだが、結局、家で何となく過ごしてしまったり、仕事をしてしまったりすることも多く、慌ただしさはないものの、少し残念な休日を過ごすことが多くなった。

しかし、そんな私に意識改革が起こった。同僚の先生方は、朝から電車に乗って東京へ出掛けたり、ちょっと足を延ばして鎌倉を散策したりと、それぞれに休日を満喫しているというのだ。遠出をしたら、疲れてしまいそう…などと考えている私とは違って、とても楽しそうだった。私もちょっと出掛けてみようかなと前向きな気持ちになった。

そして、今、私のお出掛け頻度は大幅にアップ!美味しいお店回りにショッピング、映画鑑賞。今年はフルーツ狩りを楽しんでいる。春には苺、夏はブルーベリーに桃、秋には葡萄、梨狩りの予約も済んでいる。何だか日頃の仕事も頑張れそうな気がする。

## 編集後記

ことのほか暑い夏がようやく過ぎ、秋の夜に響き渡る虫の音が身に染みる季節となりました。会員の皆様には、いかがお過ごしでしょうか。

さて、今回の会報では、第62回定期総会や各地区の活動、高知県で開催された全国大会の報告等を掲載させていただきました。

学校教育を取り巻く環境が日々刻々と変化する今日この頃ですが、当会報が少しでも会員の皆様の参考になれば幸いです。

末筆ですが、お忙しい中、原稿を執筆してくださいました方々に深く感謝申し上げます。

(山口)